

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 7月5日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300666
法人名	有限会社 イーライフ
事業所名	グループホーム明
所在地	鹿児島県鹿屋市祓川町3982-1 (電話) 0994-43-0550
自己評価作成日	平成26年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成26年5月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から11年が経過し、入所者の方々のレベル低下が著しく地域の方々を招いての行事や外出が困難な状態。しかし、重症化する入所者への医療面での支援はできており、常に看護師3名が常勤し異常時には、在宅医の往診、協力病院への受診・往診、訪問看護サービス等速やかな対応ができています。「看取り」についてもホームでの最後を多くの家族が希望される為、全職員が研修や職場での勉強会にて学び最後まで寄り添うケアが行えている。又他の施設からの入所者も多く介護困難、レベル低下の利用者も状態や状況に合わせ一人ひとり細かいケアにて改善され家族からの信頼を得ている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### 【看取りまでの支援】

- ・理念にある「温もりのある暮らし」が、終末期まで途切れることなくつながるために、日々、寄り添うことを大切に考えたケアに取り組んでいる。
- ・契約時に同意を得ている『重度化した場合の対応に係る指針』の中には、看取り介護に対する意向や看取り介護の具体的な方法、医療機関との連携等詳細な内容がわかりやすく記されており、入居後も本人や家族の変化する思いや意向の確認を繰り返し行なっている。
- ・往診医や医療機関との連携の充実により、看取りの経験が豊富にあるため、医療機関や行政の勧めで他の事業者から移って来られる利用者も多いことなど、地域の信頼と実績を兼ね備えた優れた事業所である。

#### 【災害訓練】

- ・年2回実施している災害訓練には、地域住民も参加しており、主に避難誘導をお願いするとともに、数か月毎に実施している自主訓練では、避難誘導の方法や防災シャッターの点検など、万一来た日頃の訓練の積み重ねを繰り返し行なっている。
- ・各居室のドアには、避難を確認したかどうか一目でわかるよう、マグネットを外すと「確認済」の文字がはっきり読めるよう工夫を凝らしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	安心、安全で穏やかな暮らし、健康で温もりのある暮らしが送れるように、地域と共に支え支えられながら、明るく生活が送れるように理念を掲げ共有し、サービス提供をしている。	「温もりのある暮らし」の実現に向け、利用者と積極的に関わり合いながら日々の生活を支援している。理念が現状に即しているかを毎月のケア会議で確認し合い、概ね現状に即していると考えているが、今後は高齢化や重度化していく中で、文言の変更が必要になるだろうと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として奉仕作業への参加、総会の場所提供又、避難訓練や敬老会等事業所へ足を運んでもらい日常的に交流を行っている。	自治会に加入し清掃活動や敬老会等への参加、事業所の草刈りを支援してもらうなど毎月のように交流している。また、日常的に散歩に出掛け、近所の方々と挨拶を交わしたり、梅園見学をさせてもらうなどふれあいの機会は多く、時にお裾わけを頂くなどの間柄になっている。近隣小学校とは、認知症勉強会やゲームなどを通じ交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	独居老人や認知症状の見られる方への声掛け、行事への招待等おこなっている。又地域の方からの認知、介護相談にのり必要に応じ地域包括支援センターや民生委員とも連携が取れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回多種多様の職を持たれた方々との会を開催し、ホーム内の行事や処遇、困難事例等報告行し様々な意見を頂きサービスの向上に活かしている。	家族や職員のほか、民生委員や消防団員、行政職員、包括支援センターの職員等の参加を得て、事業所の取り組みや現状報告、運営に関する課題や改善点について話し合っている。昨年は夏祭りの開催や災害訓練の実施方法について助言を頂くなど、積極的に意見交換してサービス向上につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議等で市の担当者の方々と顔なじみになり、必要時には連絡し相談やアドバイス等頂き協力関係を築いている。	介護認定の申請や困難ケースの相談のため市役所や包括支援センターを訪れるとともに運営推進会議でも顔を合わせているため、日頃より協力関係を築いている。また、包括支援センターからの相談やセンターが主催する話し合いに参加するなど地域ぐるみの課題にも連携して積極的に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員身体拘束に関する研修に参加し、又事業所でも勉強会を開催し常に学んでいる。身体拘束委員会も立ち上げており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	契約書やパンフレットに身体拘束しないケアについて説明するとともに、身体拘束廃止委員会や毎月のケア会議等でも繰り返し話し合い確認している。また、家族会においても身体拘束の種類や身体拘束をしないケアの徹底に向け取り組んでいることを説明している。「待って下さい」など日頃言ってしまうがちな言葉による拘束については、その都度確認するなど、徹底した意識付けに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員虐待に関する研修に参加し、学んでいる。又事業所でも常に職員同士行動や言動は適切であったかを話し合い見過ごす事無く注意を払いケアをおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加し、勉強会を行い、知識や意識の向上を図り、支援できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書等で契約、解約の際には家族の理解や納得がしてもらえるような説明をおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や面会時に色々な希望や要望を言うことができる環境作りに努めている。又それらの意見を取り入れ運営に反映している。	家族の面会時に日頃の様子や受診の状況等を詳細に説明しており、年1回開催する家族会や行事でも運営に関する要望をお伺いしている。遠方の家族には手紙や電話で近況報告するとともに、努めて意見や要望を聞き取るようにしている。ヒヤリハットや事故報告については、『インシデントレポート』に記録し、毎月のケア会議で申し送り、ご家族にも報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回代表者を交えミーティングを開催し職員の意見や要望、提案等聞き取り入れ運営に反映させている。	日頃から職員の意見を聞く機会が多く、ケア会議においても意見や思いを聞き取り、必要であれば解決に至るまで徹底的に話し合うようにしている。また、必要に応じて個別面談を行なうなど、職員一人ひとりの思いを大切に考え対応している。勤務体制についても、極力職員全員の希望が叶えられるよう調整している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務体制も職員の希望を取り入れ働きやすい環境作りをおこなっている。又パート2名を除き全職員常勤にて常に環境、条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員が色々な研修に参加する機会を確保し、ミーティングや会議の場で報告行い情報を共有する事で一人ひとりのスキルアップに繋げている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者とも相互のホームを気軽に訪問したり、研修の場等で交流し情報交換行ったりネットワーク作りに努めサービスの向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族との面談の際希望や要望、不安ごと等伺い又、生活歴や身体状態の情報を参考にし安心してサービスを利用できるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談も時間をかけて行い、家族の悩みが解決出来るように信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービス利用が可能な事を本人や家族に説明し、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共有の空間にて一緒に、食事やお茶、レクリエーション等行い暮らしを共にする者同士の関係づくりを築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ならではの協力や支援をお願いし、面会や行事参加等一緒に過ごす場を提供し、家族と共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に墓参りや馴染みの美容室への外出を行ったり、馴染みの方々の面会の際には、ゆっくり過ごす事の出来る環境を提供している。	本人や家族、居宅介護支援事業所等からの情報を基に人間関係を把握して、友人知人らとの面会や墓参り、郵便局等本人が希望する馴染みの場所に職員が同行している。花見など全員で出掛ける行事にはご家族の協力も得られており、歩行の難しい方については、車椅子対応のリフト車を使って外出できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立せずに良好な関係が築けるように見守り、必要時には間に入り関わり合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても自宅、施設への訪問、電話等行い、家族からの相談にいつでも対応出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの暮らしの希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、表情の変化等で思いを汲み取る努力をし本人本位で検討している。	日々の生活の中で見せる表情や行動から本人の思いや希望を汲み取り、職員全員が共有できるよう個別記録に残し、申し送り時に報告している。パッチワークを趣味にしている利用者が、これからも趣味活動を通じ楽しく過ごせるよう、作品の出展に向けた検討も重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に必要な情報や生活歴等家族や関係機関に伺い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、無理なくその時々にあった過ごしかたが出来るよう常に現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ケアミーティングを開催又、毎日の申し送り時にも課題とケアのあり方について話し合い介護計画に活かしている。	変化する本人・家族の思いや意向を毎日の生活の中から汲み取り、介護計画に反映させている。また、主治医からも状態や支援方法の助言をもらうなど広く意見を収集し計画に反映させている。モニタリングを毎月行ない、現状把握に努めるとともに入退院等で状態に変化がみられた際には、計画の再作成や認定の変更など、状態に応じて適切に対応している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活での状態の変化、気づきや行なった工夫等個別記録に記入し、ミーティングや会議等で情報の共有に努め実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族、その時々にも発生した状況に合わせ柔軟な支援やサービスの提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練、お花見、敬老会等地域の方々との交流の機会を持ち安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診や往診おこなっている。状態に応じ適切な医療が受けられるように良好な関係も築けている。	これまでのかかりつけ医を把握し職員が中心となって受診を支援している。受診の内容は業務日誌に記録し、申し送り時に職員で共有し、家族にもその都度、受診時の様子や結果を報告している。往診医からは『在宅療養計画書』にて情報提供を受け、今後の治療やケア方針等の助言をもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護来所時に、日常生活での変化等細かい事も相談し、適切な助言を貰っている。又必要時には病院受診や往診も可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に面会へ行き状態把握に努めている。その際、看護師や相談員へ情報の提供、交換、相談等し退院が早期に行えるように医療機関との良好な関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」が作成してあり、入所時より本人や家族へ説明行っている。段階的に変化する状態に合わせ、その都度家族が納得されるまで説明行い、事業所で行える事を支援している。	入居時に『看取りの指針』を説明し同意を得るようにしており、入居後も状態に応じ繰り返し確認するなど変化する思いに沿えるよう努めている。手厚い看護師の配置や在宅医、協力医療機関との密接な連携のもと、看取りの経験が豊富なため、看取りのために他の事業所から移ってこられる利用者も見られる。また、看取りに関する研修会を繰り返すなどレベル向上への意識も高い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一人ひとりの状態を把握し、急変や事故等の発生時に備え全職員救急救命の講習を受けている。又看護師や訪問看護からも緊急時の対応について学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署や地域消防団、地域の方々を交え避難訓練を行っている。災害時に冷静に行動できるように職員も常に避難方法の確認を行い、地域の方々との協力体制も築いている。</p>	<p>夜間想定を含む災害訓練を地域住民も交え年2回実施しているほか、数か月毎に避難誘導や避難経路の確認、防災シャッターの作動状況を点検するなど、万に備えた自主訓練を繰り返し実施している。各居室のドアには、マグネットを外せば避難の有無が一目で確認できるよう工夫されている。備蓄は約1週間分の食料を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない様な対応や言葉かけを行っている。	倫理や接遇を含む認知症研修を実施しており、利用者個人の思いや気持ちへの配慮を大切にした支援方法を話し合い確認している。排泄時の声かけについては、わかりやすい言葉を使い、さり気なく行なうなど、あからさまな声かけにならないよう気をつけている。また、排泄チェック表は利用者や訪問者から見えないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話から思いや希望を汲み取り、一人ひとりのペースにそって生活できるように支援おこなっている。又自己決定できない利用者については、家族の希望や要望を取り入れ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせレクリエーションや体操、散歩等を行ったりし体調や希望にそって支援行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	鏡を見て髪をといたり、化粧をしたり又、好みの衣類を利用者自ら選び着用できるように支援おこなっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	器や盛りつけ、テーブルの配置等を変更し楽しみになるような工夫をおこなっている。又一人ひとりの力に合わせ野菜の下ごしらえ等行ってもらっている。	利用者の食べたいものを献立に加えたり、外食に出かけるなど食事の楽しみを大切に考えている。誕生会等の行事の際には、利用者の食べたいメニューを提供したり、そば打ちや味噌作りなどの体験を通じて昔を思い出す話題づくり等にも工夫を凝らしている。調理の下ごしらえや食卓の準備等職員と共に行ない、職員も同じ食事をとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分量を記録し把握している。又食事、水分摂取困難時には主治医や訪問看護へ報告、相談し必要量が摂取できるよう工夫し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら行える利用者には、声掛けや見守り、必要時には一部介助にて清潔保持に努め、自らできない利用者に対しては口腔ティッシュ等で拭き取り口腔清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導にて失敗や尿取りの使用量も軽減出来るよう自立に向けた支援をおこなっている。	排泄チェック表を活用して個人の排泄パターンを把握することでリハビリパンツやおむつを外すことに成功しており、全員が布パンツとパットだけで過ごしている。そのため、ポータブルトイレを使用する方はおらず、介護の下全員トイレで排泄している。介護計画に排泄に関する支援方法を組み込むことで、職員全員が状態を把握し、対応方法を統一させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄簿を利用し、一人ひとりの排便パターンを把握しながら食事、水分の摂取を促し運動や腹部マッサージ等も行い便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴を原則としているが、本人の体調や気分、時間帯の希望を配慮し入浴おこなっている。	希望に沿って入浴できるよう支援しており、体調や皮膚疾患等に応じて足浴やシャワー浴に切り替えるなど適切な対応に努めている。入浴を拒否された場合は、「足を洗いましょう」等言葉を変えたり、声かけのタイミングを見計らうなど、本人が安心して入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状態に合わせて、ホールや居室で安心してゆっくり過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を保管し一人ひとりの情報を理解している。又詳しく理解し使用する為に薬剤師へ確認する事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事をいかし、家事手伝いやレクリエーションに参加されたり、又ボランティアの散髪や踊り等気分転換になるような行事の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの体調や気候を見ながら散歩や外出行っている。又地域の催し物に参加したり、ホームにて交流行ったりと地域の方々にも協力もらい支援している。	屋内で過ごす時間が長いとストレスにつながるため、年間行事計画の中に花見や外食、コスモス見学等の行事を多種多彩に組み込み、家族や退職した職員の協力ももらいながら出かけている。歩行の難しい利用者には、車椅子対応のリフト車で出かけたたり、利用者個人の希望する美容院に職員が同行するなど可能な限り利用者の希望が叶えられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要に応じ、預かり金より希望される物を本人や職員が代理にて購入等し、いつでもお金が使えるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族からの電話には、話がしやすい環境を提供したり、希望があれば手紙や電話ができるように支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間には、季節の飾り物や花を置いたり、外出時の写真を掲示したり又、窓を開け風を感じてもらったりと居心地よく季節を感じて過ごせるように工夫している。</p>	<p>フラットな玄関は大変出入りしやすく、フロアには季節の花や利用者が作った季節毎の作品が飾られるなど、明るい雰囲気を感じられる。また、天窓からの光はロールカーテンで光量を調整しており、温かな印象を受ける。浴室は十分な広さを確保しており、シャワーチェア等の福祉用具でスムーズな動線を可能にしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールには、ソファや座椅子を置き、好きな場所で思い思いに過ごせる様に配置の工夫等おこなっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、置物や自ら作成した物を飾り、又家族との写真や外出時の写真等を掲示し居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	<p>写真や人形など馴染みのものを持ち込み、本人や職員で居室の飾り付けをしている。居室に仏壇を置いている方もおり、職員が仏壇の水を替えるなど、本人の気持ちに配慮した関わりや環境を提供している。ベッドとタンス、エアコンは備え付けであり、衣類の整理や室温の調整など、個人に合わせた調整が可能である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーになっており、自立歩行の利用者、車椅子利用の利用者共に安全に移動する事ができ、自立した生活が送れる工夫をしている。</p>	/	/



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	安心、安全で穏やかな暮らし、健康で温もりのある暮らしが送れるように、地域と共に支え支えられながら、明るく生活が送れるように理念を掲げ共有し実践行いサービス提供している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として奉仕作業への参加、総会の場所提供又、避難訓練や敬老会等事業所へ足を運んでもらい日常的に交流行っている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	独居老人や認知症状の見られる方への声掛け、行事への招待等おこなっている。又地域の方からの認知、介護相談にのり必要に応じ地域包括支援センターや民生委員とも連携が取れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回多種多様の職を持たれた方々との会を開催し、ホーム内の行事や処遇、困難事例等報告行し様々な意見を頂きサービスの向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議等で市の担当者の方々と顔なじみになり、必要時には連絡し相談やアドバイス等頂き協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員身体拘束に関する研修に参加し、又事業所でも勉強会を開催し常に学んでいる。身体拘束委員会も立ち上げており身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員虐待に関する研修に参加し、学んでいる。又事業所でも常に職員同士行動や言動は適切であったかを話し合い見過ごす事無く注意を払いケアをおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加し、勉強会を行い、知識や意識の向上を図り、支援できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書等で契約、解約の際には家族の理解や納得がしてもらえるような説明をおこなっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会や面会時に色々な希望や要望を言うことができる環境作りに努めている。又それらの意見を取り入れ運営に反映している。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に1回代表者を交えミーティングを開催し職員の意見や要望、提案等聞き取り入れ運営に反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>勤務体制も職員の希望を取り入れ働きやすい環境作りをおこなっている。又パート2名を除き全職員常勤にて常に環境、条件の整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員が色々な研修に参加する機会を確保し、ミーティングや会議の場で報告行い情報を共有する事で一人ひとりのスキルアップに繋げている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者とも相互のホームを気軽に訪問したり、研修の場等で交流し情報交換行ったりネットワーク作りに努めサービスの向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族との面談の際希望や要望、不安ごと等伺い又、生活歴や身体状態の情報を参考にし安心してサービスを利用できるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談も時間をかけて行い、家族の悩みが解決できるように信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービス利用が可能な事を本人や家族に説明し、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共有の空間にて一緒に、食事やお茶、レクリエーション等行い暮らしを共にする者同士の関係づくりを築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族ならではの協力や支援をお願いし、面会や行事参加等一緒に過ごす場を提供し、家族と共に支えていける関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>定期的に墓参りや馴染みの美容室への外出を行ったり、馴染みの方々の面会の際には、ゆっくり過ごす事のできる環境を提供している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係性を把握し、孤立することなくお互いを思いやり、いたわりあって生活できるように支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了しても自宅、施設への訪問、電話等行い、家族からの相談にいつでも対応できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向や希望に沿った暮らしができるように本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の会話や家族から、これまでの暮らし方、生活環境等の情報を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、無理なくその時々にあった過ごしかたができるよう常に現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ケアミーティングを開催又、毎日の申し送り時にも課題とケアのあり方について話し合い介護計画にいかしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活での状態の変化、気づきや行なった工夫等個別記録に記入し、ミーティングや会議等で情報の共有に努め実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族、その時々発生した状況に合わせ柔軟な支援やサービスの提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練、お花見、敬老会等地域の方々との交流の機会を持ち安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の望む医療機関や医師への受診を行っている。又状態に応じ適切な医療が受けられるようかかりつけ医との関係も築けている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回訪問看護来所時に、日常生活での変化等細かい事も相談し、適切な助言を貰っている。又必要時には病院受診や往診も可能である。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>常に面会へ行き状態把握に努めている。その際、看護師や相談員へ情報の提供、交換、相談等し退院が早期に行えるように医療機関との良好な関係づくりを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「看取りの指針」が作成してあり、入所時より本人や家族へ説明を行っている。段階的に変化する状態に合わせ、その都度家族が納得されるまで説明を行い、事業所で行える事を支援している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時に慌てずに対応できるように、救命救急上級訓練への参加も定期的に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署や地域消防団、地域の方々を交え避難訓練を行っている。災害時に冷静に行動できるように職員も常に避難方法の確認を行い、地域の方々との協力体制も築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない様な対応や言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表し、自己決定できるように積極的働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせてレクリエーションや体操、散歩等を行ったりし体調や希望にそって支援行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	一人ひとりに合った服を選び、可能な方は好きな服を選べるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえを一緒に行ったり、利用者一人ひとりに好みを聞きメニューを決めたり又、使用したお盆やテーブル拭き等手伝って貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い必要量が摂取できるよう支援行っている。又必要量の確保が困難な時には栄養補助食品等も利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら行える利用者には、声掛けや見守り、必要時には一部介助にて清潔保持に努め、自らできない利用者に対しては口腔ティッシュ等で拭き取り口腔清潔に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が常時行えるように排泄簿を活用しながら支援行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄簿を利用し、一人ひとりの排便パターンを把握しながら食事、水分の摂取を促し運動や腹部マッサージ等も行い便秘予防に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴を原則としているが、本人の体調や気分、時間帯の希望を配慮し入浴おこなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や状況に合わせて居室や、ソファー等で休息ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を保管し一人ひとりの情報を理解している。又詳しく理解し使用する為に薬剤師へ確認する事もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事をいかし、家事手伝いやレクリエーションに参加されたり、又ボランティアの散髪や踊り等気分転換になるような行事の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望に応じて墓参りや家族との外食等積極的に行えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要に応じ、預かり金より希望される物を本人や職員が代理にて購入等し、いつでもお金が使えるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族からの電話の際は話しやす環境を提供したり、電話の希望があった時にはかけたりとやり取りができるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間には季節の飾り物や、窓を開け風を感じてもらったり、気温湿度計にて調整行ったりし居心地よく過ごせるように工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにはソファを置き、ソファに座りテレビを観たり、居眠りをされたりと一人ひとり居心地よく過ごせる工夫を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族との写真や手作りの飾り等をボードや棚の上に置き、居心地よく過ごせるように工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホールに置いてあるソファには一人ひとりの決まった席があり、テレビを観たりと思いおもいに居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない



61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない